

第3回 会議結果概要

開催概要	
日時	平成22年12月23日(木・天皇誕生日) 13時30分～16時30分
場所	一宮町保健センター3階多目的室
参加者数	37名(委員19名(代理出席を含む)、傍聴者:一般12名、報道関係者6名)
結果要旨	
◇ 第2回開催結果概要	
資料1を基に事務局から説明した。	
◇ ヘッドランド等に関する検討結果について	
①一宮海岸の地形変化メカニズムについて	資料2を基に宇多副会長から説明があった。
②8号ヘッドランドについて	資料3を基に宇多副会長から説明があった。
③2,3号ヘッドランド間について	資料4を基に事務局から説明した。
④一宮海岸の波について	資料5を基に事務局から説明した。
◇ 意見交換	
(「一宮海岸の地形変化メカニズムについて」及び「8号ヘッドランドについて」)	
・	計算した結果が示されているが、計算とはどのようなものなのか。統計的なものなのか。 →(宇多副会長) 統計的なものではなく、シミュレーションという方法を使っている。 →(近藤会長) 事務局でシミュレーションについて、わかりやすく整理するようにお願いします。
・	汀線の位置は、大潮とか満潮・干潮などによっても変わるが、どのように設定しているのか。 →(宇多副会長) 年1回撮影している空中写真から、撮影したときの潮位を平均潮位に補正して、陸との交差点を汀線としている。
・	8号の横堤と縦堤の隙間を埋めれば、太東への砂の流れはとまるのか。 →(宇多副会長) 10年間で2万m ³ を止めるが、その後、貯まった砂を乗り越えようとする動きが出てくる。それは太東の方へ行ってしまう。将来的に貯まった砂を2号、3号ヘッドランド間へ戻すということを合わせて行えば、構造物が並ぶ変わりに、海岸を現在の状態に近い状態で保つことが出来ると思う。
・	8号ヘッドランドの横堤と縦堤の隙間を塞ぐと、8号ヘッドランドのところに砂が貯まり、浜が広がるということか。 →(宇多副会長) 8号ヘッドランドの北側に広がる。
・	ヘッドランド間の中央が侵食されないようにして欲しい。 →(宇多副会長) どこまでも侵食されるわけではないが、2,3号ヘッドランドをみて

もわかるように突堤を出すと弓のように真ん中がへこむ。これはどうしても起こってしまうものである。難しい問題で今後の課題である。

- 例えば太東崎のところに砂を養浜するとか、ヘッドランドを崩れる構造にするようなチャレンジは出来ないのか。
 - (宇多副会長) 太東の方から砂が沢山くるようになると漁港が埋まり困ってしまう。その砂を漁港の北側に流せばいいが、維持的なお金を無限にかけるのは難しい。
- 一宮町では、このような会議で漁港のことも含めた話が出来るが、いまだにこのような話が出来ない地域の方が多い。だから、こういう場を設けていただいたことはありがたいと思う。
- ヘッドランドの先端を尖らすことは出来ないのか。今のヘッドランドの形状だと流れが速くてだめだと思う。
 - (宇多副会長) 先端を尖らすと波が集中してしまう。尖らせるのではなくタンカーの底のように丸くするなど、考える余地はあると思う。
- 現在の突堤は、ダシが2つも3つも入るような広さでつくっている。間隔をもっと細かくした方がいい。また、突堤の間に小さな突堤をつくったらどうか。
 - (宇多副会長) 効果は無い。北九十九里に行けばそれと同じものがあるが、全く砂浜がない。その程度のもので済むのであれば、海岸保全はとっくの昔にできあがっている。お気持ちはわかるが、人間の力で、構造物によって細砂を完全にコントロールするのは、多分できない夢である。
- 2, 3号ヘッドランドの所で養浜して真ん中に小さい突堤を入れた。波が静かなときは砂がついたが、大きい波が来ると砂が無くなってしまった。突堤の間隔をもっと狭くすれば砂がつくのではないか。
 - (宇多副会長) 強い波のときには、砂は横に動くのではなく、岸沖方向に動いて沖に貯まる。その動きは人間の力ではどうしようもない。
- 突堤の周りに砂がつくメカニズムはどういうものなのか。
 - (宇多副会長) 沿岸漂砂といって、波がジグザグで動いてくると構造物の上手側に砂が貯まって、下手側は掘られるという動きになる。
- 失敗を防ぐためには、工事後に丁寧にモニタリングして、達成したところと不十分なところを公開で議論するというルールを作ることが大事である。
- 横堤ありきじゃないということを約束して欲しい。
 - (近藤会長) 残っているものについては、新しい技術と新しい考え方で検討すればもっといいものが出るかもしれない。それをみんなで話し合っていこうということだと思う。
- ヘッドランドはほぼ完成に近い、ここでいろいろって県の足止めをするべきでない。やるべきことは即座にやって、その上でどういう方法がいいかを考えた方がいい。
- 夏になると南川尻川の河口をバックホウで掘らないと水が流れなくなる。8号ヘッドランドのところに砂を集め過ぎるのはよくない。
 - (近藤会長) 事務局の方で、海岸管理を行う上で8号ヘッドランドに砂が貯まりすぎたらどうするのかを考える必要がある。

〔2,3号ヘッドランド間について〕

- ・ 先ほど小突堤は効果がないといったが、この小突堤は意味合いが違う。2,3号間には砂を入れている。広い範囲に限られた量の砂を入れるといつまでたっても効果が出ない。このことから、特に海水浴場の方に砂をとどめて効果を早期に発現させるために小突堤をつくっている。先ほど現地を見たが、砂が全部無くなっている。しかし、砂は2,3号間にあり4月頃から3ヶ月ぐらいかけてゆっくりと戻ってくると思われる。
- ・ 太東漁港の防波堤の影響範囲は、何号ヘッドランドまでなのか。
 - (宇多副会長) 正確にいうことは難しいが、7号ヘッドランド付近まで静かな領域となる。静かな領域に砂を引き込むので、その影響は4から5号ヘッドランド辺りまで及んでいる。2,3号ヘッドランドまで行くと太東漁港から結構距離があることと、波の影響からするとむしろ一松の方に動くと考えられる。その分岐点は波の方向に依存するので、すぐにはいえない。

〔一宮海岸の波について〕

- ・ こういったデータは今まで見たことがない、非常に興味深いデータである。
- ・ 冬場に太東の方がサーフィンに適した波の分布が小さくなっているが、実際には太東は北風を交わしてくるので、冬は逆に太東の10号ヘッドランドから南側がポイントとしてはよくなる。また、去年や今年は、夏場に一宮川の河口の中でサーフィンをやっている人たちが結構見受けられた。その他は、この分布の通りだと思う。
- ・ 実際は風の向きも関係している。このデータは少し違うように思う。
 - (宇多副会長) このデータには風の影響は入っていない。これに夏場と冬場の風向きを入れるともっと奥深いものとして整理される。

〔議決内容〕

- ・ 8号ヘッドランドは、縦堤と横堤を接続させるために縦堤を延伸することとする。
- ・ 2,3号ヘッドランド間では、養浜と小突堤の延伸を合わせて実施することとする。

◇ その他

- ・ 一宮町長の諮問会議である「海岸利用計画検討委員会」を2回開催したことから、一宮町から検討内容を報告した。
- ・ 次回(第4回会議)は、H23.3月頃を予定し、内容は6号ヘッドランドについてであることを事務局から報告した。